

サバティカル期間における研究経過・成果報告書

平成 30年 3月 26日	
国立大学法人茨城大学長 殿	
所属・職名 農学部・准教授	
氏 名 西川 邦夫	
下記のとおり、サバティカル期間が満了しましたので、研究経過・成果等を提出いたします。	
サバティカル制度を利用した期間	2017年 4月 1日 ~ 2018年 1月 31日

<p>①研究経過について (利用期間を月単位などに区分して、具体的な研究経過を記入して下さい。)</p>	<p>サバティカル期間中を通じて、カリフォルニア大学リバーサイド校に拠点を置いて研究活動を実施した。4月から5月にかけては、主に大学内での文献調査、リバーサイド市周辺での実態調査(研究者や普及事務所への訪問)、及びセミナーへの参加を通じて、フィールドワークを実施するための予備的知識の獲得に費やした。6月から12月にかけては、稲作の中心地であるサクラメント・バレーでの実態調査を4回(6月、9月、10月、12月)実施した。実態調査では、稲作農場、精米業者、普及事務所、稲作研究機関、稲作農業者団体等を訪問し、カリフォルニアにおける稲作の実態把握に努めた。1月は研究の取りまとめを実施するとともに、ニューヨーク市で開催された安倍フェロシッププログラムの会合で研究成果の報告及び議論を行った。</p>
<p>②研究成果について (目標の達成状況及び研究成果の公表予定について記入して下さい。)</p>	<p>本サバティカルでは、カリフォルニア州稲作におけるコスト効率性と環境親和性の両立の構造について、大規模に実施されている冬季湛水を通じて明らかにすることを課題としていた。期間中の研究を通じて、標記目標はおおむね達成されたと考えられる。第1に、稲作農業者を支える支援体制が、冬季湛水の成功に大きく貢献したことが明らかになった。具体的には、州法によって収穫後の稲わら焼却が制限されるという困難な状況に対応するために、カリフォルニア大学協同普及事業、チェックオフ・システムの各機関、狩猟愛好者団体等、カリフォルニア稲作に関与する主体の協同によって冬季湛水というイノベーションがもたらされた。第2に、冬季湛水の費用の方が春の耕起に係る追加的費用と比べて低いことも、冬季湛水を促す経済的要因となったことが明らかになった。冬季湛水による土壌の柔軟化は、春の耕起の回数を減らすことができる。サクラメント・バレーにおける相対的に低い水利料金は、冬季湛水の経済的有利性を強めた。</p> <p>本サバティカルにおける研究成果の一部は、既に2018年3月に開催された農業問題研究会春季大会シンポジウムにおいて、「民主党州政下のカリフォルニア稲作—農業者の憂鬱と共和党支持の基礎—」と題して報告された(招待講演)。同学会の機関誌である『農業問題研究』に、報告に基づいた論文が掲載されることになっている。また、今後も<i>California Agriculture</i>等の英文誌への投稿、国内農業経済学関連学会での報告・論文投稿を予定している。</p>